

中期目標

大項目

I. 患者にとって最適な医療の提供

中項目

7. リハビリテーション機能の充実

- ・ 高度・専門的なりハビリテーション医療を充実させる
- ・ 急性期の疾病治療・リハビリテーションから、回復期のリハビリテーションを連続的、一体的に提供する体制を構築する

【期待する成果】

急性期病院在院日数

	H24年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
総合	12.2日	常に前年度より改善させる				11日
西和	14.7日					12日

在宅復帰率

	H24年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
リハ	87.8%	常に高い水準で維持				

現 状

- 総合医療センター・西和医療センターからリハセンに転院する患者は少ない
総合医療センターからリハセンへ 6名
西和医療センターからリハセンへ 15名 (H24年度実績)
- 総合医療センター・西和医療センターとリハセンが一貫したリハビリを行えば、リハビリ効果は上がる
- 発達障害児の増加は著しいが、県内の受入施設は不足している
保護者から訓練回数(頻度)の増、訓練終了後の継続支援等の要望が強い
- 早期リハビリテーション実施件数は、人口10万人あたり437.1と、全国値441.7に比べやや少ない

早期リハビリテーション実施件数

	県全体	全国値
件数	6,171	561,247
人口10万人あたり	437.1	441.7

中期計画

法人の決意

- ・ 患者の多様なニーズに対応できる高度・専門的リハビリテーションを提供する
- ・ 急性期から回復期にかけての一貫した最適なりハビリを行い、多くの方が在宅復帰できるよう支援する
- ・ 障害児（者）医療の提供・充実

取組項目

- ・ 急性期については総合医療センター・西和医療センターにおいて、回復期にかけては総合リハビリテーションセンターにおいて役割を担当
- ・ 発達障害児に対する感覚統合療法の充実
- ・ 障害児（者）に対する外科的治療の充実

心大血管 リハビリテーション実施件数

	H24年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
総合	1,547件					40%増 4,200件
西和	—	見込 2,800件				12%増 3,200件

脳血管 リハビリテーション実施件数

	H24年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
総合	13,422件					5%増 14,000件
西和	9,337件					15%増 10,800件
リハ	168,174件					2.5%増 172,500件

運動器 リハビリテーション実施件数

	H24年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
総合	7,626件					20%増 9,000件
西和	7,475件					15%増 8,600件
リハ	33,134件					2.5%増 34,000件

小児 リハビリテーション実施件数

	H24年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
リハ	39,871人					2.5%増 41,000人

法人内からリハビリテーションセンターへの受入件数を倍増

	H24年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
	21件					倍増



中期計画

法人の決意

- ・患者の多様なニーズに対応できる高度・専門的リハビリテーションを提供する
- ・急性期から回復期にかけての一貫した最適なリハビリを行い、多くの方が在宅復帰できるよう支援する
- ・障害児（者）医療の提供・充実

取組項目

共通項目

- 地域医療連携室の強化
 - ・3病院の地域医療連携室の共働
 - ・在宅復帰支援の充実
 - ・維持期リハビリテーションへの円滑な移行

リハビリテーションセンター

- 中核リハビリテーション施設としての充実強化を図る
 - ・高次脳機能障害、脊髄損傷、摂食嚥下障害など多様な疾患に幅広く対応
 - ・最新のリハビリ療法やロボットスーツなどの先進訓練機器・評価機器の導入
 - ・摂食機能療法の充実
 - ・急性期病院からの早期受け入れを可能とする医療体制の整備
- 人材の確保、養成
 - ・リハビリテーション科専門医
 - ・発達障害児に対応する小児科・児童精神科医師の確保
 - ・認定看護師
 - ・専門性の高いリハビリ療法を担うセラピストの養成
- 小児の発達障害の診療及びリハビリテーション
- ロコモティブシンドロームに関わる検診コースの整備

総合医療センター

- ・体制を強化し、365日リハビリテーションを実施する

西和医療センター

- ・体制を強化し、心臓リハビリテーションを実施・充実させる
- ・急性期における高次脳機能障害、言語障害、摂食嚥下障害に対する支援の充実・強化